

令和5年度補正予算「ボツワナ北部地域（ンガミランド）における干ばつの影響を受けている世帯・小規模農家に対する食料安全保障改善のためのレジリエンス強化」プロジェクト開始式の実施

在ボツワナ日本大使館

令和6年5月2日

4月30日、ボツワナ北部のシャカウエにて、令和5年度補正予算「ボツワナ北部地域（ンガミランド）における干ばつの影響を受けている世帯・小規模農家に対する食料安全保障改善のためのレジリエンス強化」のプロジェクト開始式が行われ、大森摂生駐ボツワナ日本国大使、ホバス UNDP ボツワナ常駐代表、カピンハ国会議員、シャカウエの住民、来賓その他関係者が出席しました。本プロジェクトは、令和5年度補正予算による対ボツワナ無償資金協力事業で、日本政府は UNDP に対して 408,352 米ドルの拠出を行い、UNDP ボツワナ事務所がボツワナ政府関係省庁と連携して、プロジェクトを実施しています。

本プロジェクトによる現地調査の結果、干ばつの影響を大きく受けたボツワナ北部地域の2千世帯に対して、緊急食料支援としてメイズ、小麦、砂糖等を含む食料パッケージが配布されます。開始式では、大森大使及びホバス UNDP 代表により、コミュニティ代表の皆さんへ食料パッケージが手渡されました。プロジェクト期間は2024年3月から1年間で、今後は同地域の女性や若者を含む小規模農家に対して、気候変動に対応するためのスマート農業構築支援や灌漑復旧事業、水資源管理技術支援等が行われる予定です。

開始式において、大森大使は、今回の緊急支援により、干ばつ被害を受け緊急の人道支援を必要とする世帯、特に女性や若者への農業支援を通じて、気候変動に対するレジリエンス強化の一助となることを願う旨述べました。また、大森大使は、最近の深刻な干ばつや洪水の影響を緩和することが重要であると同時に、気候変動の将来的な影響への対応を検討することも重要であると述べました。



大森大使によるスピーチ



食料パッケージの手渡し